

2023年度(第2回)

**学校関係者評価委員会評価報告書**

(2023年度自己点検・自己評価)

令和6年3月29日

学校法人 朝日医療学園  
朝日医療専門学校広島校

# 2023年度 朝日医療専門学校広島校

## 第2回 学校関係者評価委員会

(委員)

氏名	所属	任期	種別
土方 政幸	公益社団法人広島県柔道整復師会理事	2023年4月1日 ～2024年3月31日	企業・業界団体
河部 眞利	広島県立安芸南高等学校 元校長	2023年4月1日 ～2024年3月31日	高等学校校長経験者
渡邊 由恵	広島テレビ放送株式会社 総務局 総務人事部	2023年4月1日 ～2024年3月31日	学生の保護者
中村 崇弘	己斐なかむら鍼灸接骨院 院長	2023年4月1日 ～2024年3月31日	本校卒業生

評価項目別結果 1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切

(1)教育理念・目標(教育理念、目標、育人人材像)			自己評価点	学校関係者評価点
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>教育理念や教育目標等については、入学式等の行事での挨拶・学生便覧、校内掲示(1Fロビー、教職員室等)、ホームページなどで、学生・保護者に周知しているが、その他の実践方法は実施できていない。</p>	<p>今後も同様の周知継続を実践しつつ、次年度以降、教務部が主体となって実施する新入生ガイダンスにて、教育訓練の一環として実践し周知を図る。さらに、次年度からWeb上で出欠・成績などが閲覧できる機能を運用しつつ保護者との連携を実践する。</p>	<p>新しいシステムの導入については概ね好意的に受け止めることができる。特に自宅外生の保護者にとっては、出席状況が把握できる点について評価したい。実際に運用を始めて見えてくる問題点については、保護者説明会なども検討する必要がある。</p>	3	3
<p>特記事項 新しいシステムの導入は保護者との連携強化の部分で改善を図りつつ運用していくことが重要である。</p>				
(2)学校運営(運営方針・運営組織・情報管理)				
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>評議員会および理事会で承認された経営方針や事業計画をもとに学校長の指示の下、組織的に運営しているが、教職員へ周知する方策をさらに徹底したい。 校内各会議において、各期における事業報告と行動計画を立案し、業務の進捗状況を確認する必要がある。</p>	<p>承認された経営方針や事業計画は、教職員組織の管理者会議にて報告するだけでなく教職員全体へ伝達する必要がある。そのために学科会議および常置委員会を通じて検討内容や承認事項の把握に努める。さらに教職員全体会議で周知徹底事項を共有し、期中には事業計画や事業予算の進捗状況の経過報告を実施していく。</p>	<p>現状、問題点や指摘する点はなし。</p>	3	3
<p>特記事項 なし</p>				
(3)教育活動(目標設定、カリキュラム編成、成績評価、単位認定、資格取得の指導体制)				
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>年間を通して補習・チューター体制を整え、継続的に指導を実施している。また、月1回、第3学年を対象に模擬試験を両学科とも実施した。 学生の多様化が進み、成績不良者・優良者の差がはっきりと表れる傾向が強くなっている。学習習慣を早期から身に付けさせる必要がある。 またタブレット端末を用いた講義を実施し、Google Classroomを活用した授業資料・課題・補習動画等の配信を行った。</p>	<p>柔整・鍼灸学科ともに実質合格率の向上を目標に、今後も国家試験対策講義・補習等を継続していく。 基礎学力の低さが目立つ学生が増えていることから、授業・補習等を通して、学生が「分かった」「覚えた」という実感が得られる授業改善に取り組んでいく。 最大目標の100%合格(全員合格)を達成できるよう、全教員参加のもと幅広い視点で最大限の検討を実施していく。</p>	<p>学力格差の問題点においては、課題提出だけでは量れないこともあるのではないかと。現状は教員側の努力で様々な手立てをたて実践しているようだが、この方策では教員の負担が大きいと感じる。 新たな試みとして学生自身に講義内で読書させる方策については、教員側の負担軽減の観点からも好感が持てる。活字離れを食い止めることにより学力アップが見込めるのではないかと。</p>	3	3
<p>特記事項 現状では課題提出を繰り返すことが成績不良から脱している一つの方策であることは否めない。</p>				

<b>(4) 学修成果(資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動)</b>			3	3
<b>現状・課題</b>	<b>今後の改善方策</b>	<b>学校関係者評価</b>		
<p>国家試験合格率は両学科ともに全国平均を上回る水準で推移しているが、実質合格率を向上させるために、授業や補習等の取組みを工夫する必要がある。</p> <p>就職希望者に対する就職率は100%を継続中。</p> <p>退学率に関しても5%未満を維持抑制している。</p> <p>資格取得後の将来像を見据えた特別講義の実施や各種ゼミを開講しており学生の満足度向上に寄与できている。</p>	<p>実質合格率向上を目指す強化対策として、定期的な模擬試験と確実かつ丁寧な補習を実施する。また、習熟度による個別指導を強化し、成績不良による退学者数を抑制し、退学率5%未満を継続する。さらなる学生の満足度向上に寄与するため、教員一丸でアンテナを張り、学生の社会的活動につながる支援活動を模索していく。</p>	<p>国家試験の実質合格率向上のために、早い段階から学生本人に目的意識を植え付け、脱着者を持たしつつ、脱落者を減らすことに苦慮されていることが伝わる。</p>		
<b>特記事項</b>				
「焦らず、慌てず、諦めず」の気持ちで継続することが重要である。				
<b>(5) 学生支援(就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援)</b>			3	3
<b>現状・課題</b>	<b>今後の改善方策</b>	<b>学校関係者評価</b>		
<p>学生生活上で起こりうる相談については、クラス担任を中心に面談できる体制をとっている。健康管理上で起こりうる支援については、適宜、体調面の把握を行い必要な処置を講じている。また、各教科担当者が講義中の学生の様子を学科会議等で報告し、後手に回らない対応とならないよう個人指導も実施している。</p> <p>就職・進学支援については、担任・キャリア担当者が中心となり、第3学年の学生全員の進路希望の聞き取りと面談を行い、就職先の斡旋を行っている。</p>	<p>学生支援活動上で起こりうる支援活動については、即効性を追い求めるのではなく、丁寧な面談や普段のコミュニケーションを通じて、学生の状況を把握した指導を実施していく。また、学生の多様化が進んでいることは事実であり、新しい時代の学生理解・指導の在り方を教職員も学び、学生が意欲的に学べる知識を深化させなければならない。</p> <p>就職・進学支援については、卒業後の支援強化に努め、就職希望者の望む分野へ全員就職を目指す。</p>	<p>就職および進学支援については丁寧な対応を実践されていると見受けられる。しかし、高校新卒の学生と社会人入学の学生がいることから今後は双方の望む将来像を考慮した支援活動が求められる。特に独立開業を視野に入れた社会人にとっては実務経験年数が問われることについて、社会人の従事できる職場環境(年収や労働条件)を斡旋できることが課題である。高校新卒の学生においては、離職率も高めであることを加味して支援を続けて欲しい。</p>		
<b>特記事項</b>				
就職支援については、恒久的な対策を講じていく必要がある。				
<b>(6) 教育環境(施設・設備等、学外実習、防災・安全等)</b>			3	3
<b>現状・課題</b>	<b>今後の改善方策</b>	<b>学校関係者評価</b>		
<p>開校から15年が経過し経年劣化による修繕が必要な設備や、安全・防災面の老朽化対策については、予算を慎重に計上し、適宜計画的に進めている。</p> <p>そのほかの教育環境の改善のひとつとして、Web上で出欠登録が可能な新機能を今年度末に導入し、新機能を適切運用することで教職員の負担軽減を図る予定。</p>	<p>西広島駅周辺の再開発に伴う移転計画もあり、大きな施設改修は現実的ではない。ただし、教育環境の構築は施設・設備などハード面だけではなく、教職員が教育に集中できるソフト面も含めて改善が必要である。引き続き教職員の負担軽減を図ることができる教育環境の構築について検討していく。</p>	<p>現状、問題点や指摘する点はないが、新規導入のシステム運用が教職員にとってより良い環境整備になることに繋げて欲しい。</p>		
<b>特記事項</b>				
なし				

(7) 学生の募集と受け入れ(学生募集活動、入学選考、学納金)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>本年度は18歳人口の大幅減少による高校生募集での苦戦が予想されていた。さらに、コロナ緩和に伴う県外への流出や県内・県外の大学による攻勢、一般企業の高校生求人への大幅増といった要因もあり非常に厳しい募集活動となった。実際に高校生のオープンキャンパス参加者は2～3割減少、歩留まりも決して良い状況ではなかった。今年度より導入の「特待生制度」等で少しは抵抗するも、高校生の出願者数は昨年度より約3割近く減で留めるのがやっとであった。ただし、同時に社会人入学者への対策を早くから実施したこともあり、高校生の減少の全てではないがカバーできた状況もある。最終的には昨年度の全体入学者の1割5分減程度まで留める努力をするとともに、次年度では更なる高校生募集対策の強化と、引き続き細やかな社会人募集対応を継続する必要がある。</p>	<p>次年度も18歳人口の減少・県外への流出・大学の攻勢・就職求人への増加といった状況はより顕著になることが容易に予想でき、本年度と同じ事をしていても出願・入学者が減ることは明白である。よって、対応・改善策としては募集活動の人員を増やすことで、特に高校生募集対策として今まで以上に積極的に校内ガイダンスへ参加したい。さらに、スポーツチーム&amp;高校部活動への積極的関与を強化することでより多くの高校生と接触・対話を図り、柔道整復師・鍼灸師・朝日医療広島の知名度・認知度の向上にも注力し、入学希望者&amp;入学検討者のできるだけ多くの母集団形成を地道に行っていく。もちろん、社会人募集に関しても引き続き細やかで丁寧な対応を心がけ、本年度より一人でも多くの出願・入学者を目指す活動を実施していく。</p>	<p>入学者数増加へ向け導入した「特待生制度」のエントリー数が伸びていない結果は、本来の目的を果たせていないと言わざるをえない。導入一年目であったため学生・保護者への周知ができていないのか、高校の進路担当者に本制度の魅力が伝わっていないのかを見極めて対策を講じて欲しい。元来、学生目線のみで考えると、早く進学を決めたい思いのみで行動する学生が多い。導入二年目に向け、一年目の反省を是非とも活かして「学力優秀者」として魅力ある制度運用を期待したい。</p>		
<p>特記事項 「特待生制度」の活用は経済的な支援につながり、自己投資のために使える制度であると周知する。</p>				
(8) 財務(財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>公認会計士の監査を受け、評議員会および理事会で審議のうえ、現状は適正な財務状況であると承認を受けている。しかしながら、18歳人口減少の社会情勢もあり、財務基盤の柱となる学納金収入が大幅に増加する予測は現在のところ現実的ではない。</p>	<p>引き続き全体的な財務状況を意識しながら適切且つ正確な予算申請を実施していく。 次年度においては、対前年を上回らない予算計上を立案している。また、事業遂行の際には可能な限りコスト削減に努める。</p>	<p>現状、問題点や指摘する点はないが、学生数減少の社会情勢を意識し、適切な事業遂行に努めていただきたい。</p>		
<p>特記事項 全体的な財務状況を常に意識し事業遂行を実践していく。</p>				
(9) 法令等の順守(個人情報保護、学校評価)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>現状では、設置基準に則ったうえで適正な運営がなされている。</p>	<p>次年度以降についても大きな改善は必要ないと考えているが、イレギュラーな対応に迫られることのないよう、特に教職員の適正人員の確保と配置に常に気を配る必要がある(休職対応など)。</p>	<p>現状、問題点や指摘する点はなし。</p>		
<p>特記事項 なし</p>				
(10) 社会貢献・地域貢献(社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>地域住民を対象とした「いきいき100歳体操」を本校2階柔道場にて、引き続き実施している。 また、地域団体からお声がけを頂き地域貢献活動の一環として、教職員・学生で地域行事のボランティア活動やスポーツ活動に積極的に参加している。</p>	<p>引き続き地域に関わられた魅力ある学校づくりを推進することはもちろん、本校の資源(人材・教材・施設等)を活かした地域貢献活動については、次年度以降は主体的に実施していくことを目標とする。</p>	<p>地域貢献活動については、これ以上の活動はないほどに適切である。今後も学校が地域密着のなくてはならない存在として、主体的な貢献活動を続けていく姿に期待したい。</p>		
<p>特記事項 なし</p>				

### 総合的評価結果

特に大きな問題なく健全な学校運営が図られている。